入院診療計画書

治療方針：人工肛門閉鎖術　Ver.1.1

ID:

氏名：　　様

病棟（病室）：　　（　　）

年　月　日

推定される入院期間：7～13日間

【治療計画】

病名	

症状	

特別な栄養管理の必要性	
有　・　無	

その他の計画	

在宅復帰支援計画　＊	

在宅復帰支援担当者名	

総合的な機能評価◇	

日付	月　日 ～ 月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日	月　日 ～ 月　日
経過	入院日～手術前日	手術当日（手術前）	手術当日（手術後）	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目～退院日
達成目標	・手術の必要性を理解し、不安なく手術を受けられる。		・疼痛コントロールが実施できる。→	・離床を行うことができる。→ ・術後合併症の兆候がみられない。→	→	→	→	→	・退院後の留意点について理解できる。 ・食後の腹部症状がなく排便コントロールがとれる。→
安静度 リハビリテーション計画 退院	・リハビリテーションの介入が必要な方は、リハビリテーション実施計画書を作成します。 ・病棟内を自由に歩くことができます。		・症状に合わせて体を動かしていきます。 ・初回歩行時は、看護師またはリハビリスタッフが付き添います。その後は自由に歩けます。	・回復にむけてなるべく体を動かしていきます。	・リハビリ安静度にあわせて自由に移動可能です。				・症状を確認し、問題がなければ退院ができます。
栄養管理計画	・栄養状態の確認を行い、必要に応じて栄養管理計画を立案します。 ・昼食までソフト食が摂れます。 その後手術まで食事は摂れません。 ・水分（水、茶）は摂れます。	午前手術なら朝6時まで 午後手術なら朝10時まで水分は摂れます。	・手術後、医師の許可が出てからむせなければ、水を飲むことができます。	・食事はできませんが、水・お茶は摂れます。	・昼食から流動食が摂れます。	・3食流動食が摂れます。	・昼からソフト食が摂れます。	・昼から軟菜食が摂れます。	・手術後6日目に栄養指導があります。 ・手術後7日目より常食が摂れます。
薬剤管理計画	・処方された下剤を内服します。	・医師から指示された薬のみ、 少量の水で内服することができます。	・点滴があります。→ ・痛み止めと胃薬を飲みます。 			→			
検査内容 及び日程				・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・採血があります。	
手術処置 内容及び日程		・手術室に行く前に、全ての衣類を脱ぎ、T字帯、弾性ストッキング、術着を着用します。	・マスクを着け、酸素吸入を行います。 ・手術室で痛みどめの管を背中に入れます。 ・心電図モニターをつけます。	・歩行後、弾性ストッキングを外します。 ・心電図モニターを外します。	・創のシャワー洗浄をします。→	・背中の痛みどめの管を抜きます。	→	→	→
清潔	・シャワーをしていただきます。 ・手術に備え、歯磨きをしてください。	・朝の歯磨きを必ずしてください。		・看護師が蒸しタオルで体を拭きます。	・シャワーができます。→	→	→	→	→
排泄	・歩いてトイレに行くことができます。→	→	・手術室で尿を出すための管を入れます。	・歩くことができれば、尿の管を抜きます。 ・尿の管を抜いた後は、歩いてトイレに行くことができます。	・歩いてトイレに行くことができます。→	→	→	→	→
患者様及び ご家族への説明	・麻酔科医師による手術前の診察があります。 ・看護師が入院後の生活、入院・手術に必要な物品の説明をします。	入室10分前にはトイレを済ませておいてください。	・医師から手術結果についての説明があります。		・人工肛門閉鎖部の洗浄方法の説明を行います。				・医師が退院について説明します。 ・薬剤師が退院後の薬の内容と管理について説明します。 ・看護師が退院後について説明します。

主治医以外の担当者名	看護師：	薬剤師：	理学療法士：	管理栄養士：

看護計画		**主治医**	

注1）病名及び治療内容等は、現時点で考えられるものであり、検査・治療を進めていくにしたがって変わり得るものである。
注2）入院期間、表記の日時については現時点の予定である。
注3）＊印は、地域包括ケア病棟入院料（入院医療管理料）を算定する患者にあっては必ず記入すること。
注4）◇印は、総合的な機能評価を行った患者について、評価結果を記載すること。
注5）特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等、様式の変更が直ちにできない場合、その他欄に記載してもよい。

板橋中央総合病院